

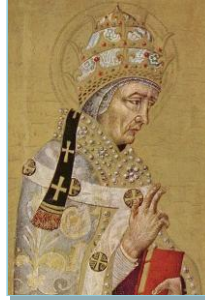
1月20日

殉教者主教ファビアン

Fabianus

(? ~ 250.1.20)

～第20代ローマ教皇～



「ファビアヌス」

人名辞典などでは、ファビアーヌスやファビアノスと表記される。彼は第20代ローマ教皇で聖人なのだが、その生誕など人物に関する部分について、詳しいことはわかっていない。

彼は第20代ローマ教皇を選ばなければならない時、まだ新参者であり、また司教にも叙階されていなかった。しかし、教皇を選ぶために集まった多くのキリスト教徒の目に、ファビアンの頭上にとまる鳩のような霊が映った。その霊はファビアンの頭を照らしていたという。その結果、新参者であったにもかかわらず、ファビアンは他の候補者たちを指し置いて司教に叙階され、第20代ローマ教皇に選ばれたのである。

彼は教皇として多くの業績を後世に残していく。まずローマ教会の組織整備に手をつける。まずローマ市を7つの教区に分割し、7人の助祭と46人の長老に分担した。さらに下級聖職者を五段階にするなどし、貧しい人の救済を容易におこなえるようにしていく。

またローマのサン・セバスチアーノ・ファーリ・レムラ教会の埋葬場所である「カタコンベ」内にある施設の拡充をした。

さらに、ローマ皇帝フィリップス・アラブスとその息子に洗礼も授ける。

さらに殉教者たちの事績を調査するためのポストも設立したという。

彼の見事な職務遂行ぶりは、キュプリアヌスも手紙8と手紙9で高く評価している。また、オリゲネスとも親交があり、信仰においてはオリゲネスの立場に同調していた。

しかしローマ皇帝がデキウスに変わると、状況は変わっていく。デキウスはゴート族に対抗する作戦に従事し、また古代ローマの宗教を復興しようとした皇帝だった。そのため、キリスト教徒に対し、組織的で激しい弾圧をおこなっていく。その中で、ファビアンも命を落とし、殉教者の一員となっていた。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教ファビアンに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン